



# 食品製造業における人手不足の実態調査

富士電機株式会社

2021年10月公開版

# 調査概要

調査目的	食品製造業の人手不足の実態と人手不足への対応状況に関する調査
対象エリア	全国
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>対象者：食品製造業従事者</li><li>属性：一般社員以上の役職者、従業員規模</li><li>所属部門：製造・生産,生産管理・品質管理,調達・購買,技術・研究開発,経営企画・事業企画,情報システム,その他</li></ul> <p>The first pie chart shows the distribution of respondents by job class: 係長・主任クラス (52%), 課長クラス (31%), 部長クラス (15%), and 経営層・役員クラス (2%). The second pie chart shows the distribution by employee scale: 100人未満 (31%), 100人～499人 (37%), 500人～999人 (11%), and 1,000人以上 (21%).</p>
有効回答数	206人
調査方法	インターネット調査
調査期間	2021年6月25日～6月27日

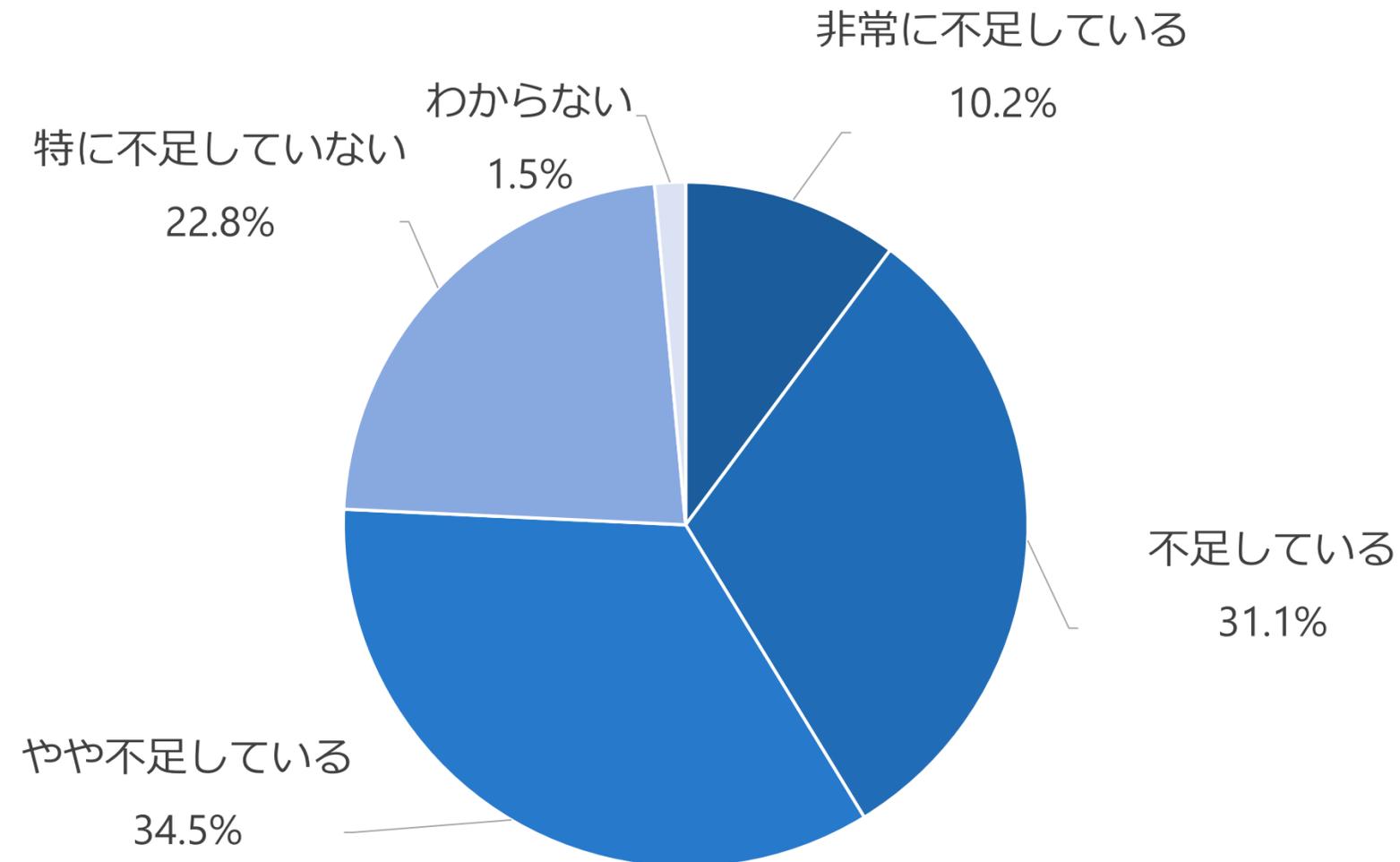
## ■ 調査項目

- 食品製造業の人手不足状況
- 食品製造業で人手が不足している理由
- 食品製造業の人手不足が業務及ぼす影響の有無
- 食品製造業の人手不足が業務に与えている影響（懸念される影響）
- 食品製造業の人手不足への対応方法・取り組み状況について
  - ・ 多様な人材の活用
  - ・ 教育訓練・能力開発の強化
  - ・ 業務フロー・業務プロセスの改善・見直し
  - ・ 業務の外部委託（アウトソーシング）
  - ・ ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化
  - ・ 多様な働き方実現
  - ・ 従業員間における業務の平準化
  - ・ IoT/IT活用による省力・効率化
  - ・ 既存設備の更新による省力・効率化
  - ・ 他企業との協働見える化/見せる化の手段・方法
- 食品製造業の人手の過不足に関する問題・課題について（F A）

## ■ 食品製造業の人手不足の状況

- 人手不足の状況について「非常に不足している」と回答したのは全体の10.2%、「不足している」が31.1%、「やや不足している」が34.5%となった。一方で、「特に不足していない」の回答は全体の22.8%となった（図1）。
- 従業員規模別の集計では「非常に不足している」が最も多かったのは100人～499人の回答で5.4%、最も少なかったのは100人～499人で回答は5.4%となった。

図1 人手不足の状況

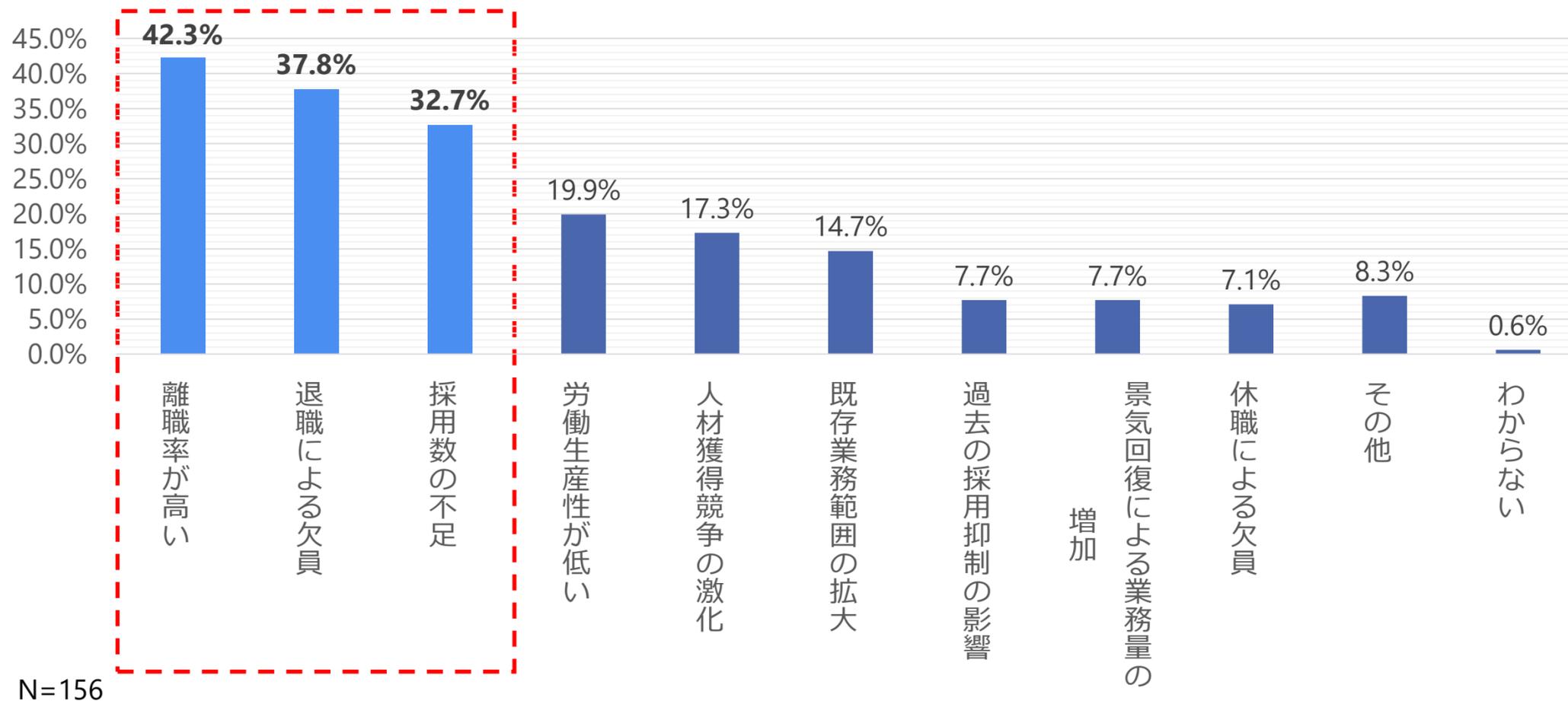


N=206

## ■食品製造業で人手が不足している理由

- 人手が不足している理由について、もっとも回答が多かったのは「離職率が高い」で42.3%、次いで「退職による欠員」で37.8%、「採用数の不足」で32.7%の順に続く結果になった（図2）。
- 従業員規模1,000人以上では「人材獲得競争の激化」の回答は27.0%という結果になった。一方、従業員規模100人未満では3.9%となり、取り組み状況に23.1%の差が開いた。

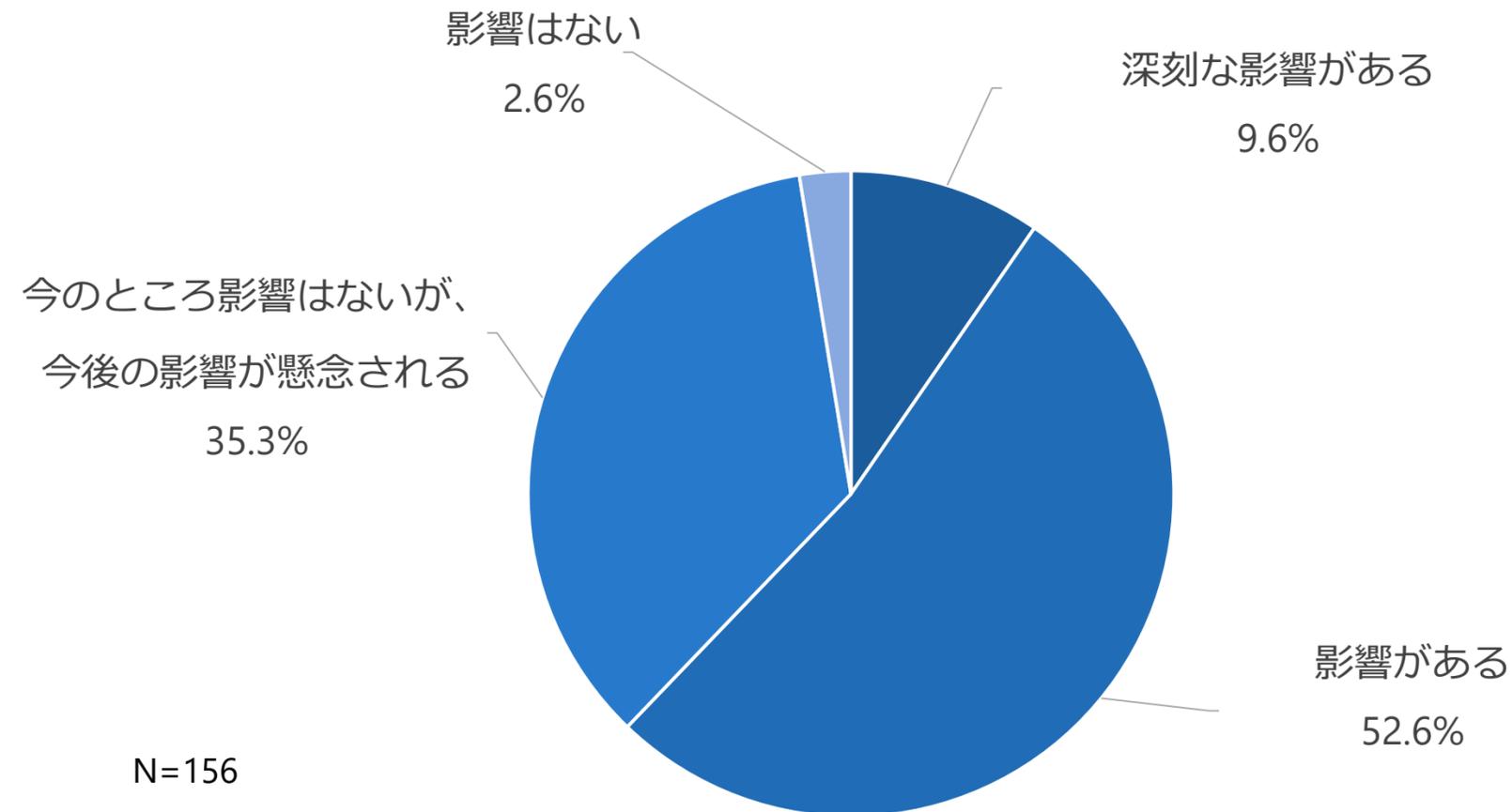
図2 人手が不足している理由（複数回答）



## ■ 食品製造業の人手不足が業務及ぼす影響

- 人手不足が業務に与える影響度について「深刻な影響がある」と回答したのは全体の9.6%、「影響がある」が52.6%、「今のところ影響はないが、今後の影響が懸念される」が35.3%となった。一方で、「影響はない」の回答は全体の2.6%となった（図3）。
- 従業員規模別では従業員数が少なるほど人手不足が業務に与える影響度が高くなる傾向がみられた。
- 従業員規模1,000人以上では「深刻な影響がある」の回答は5.4%という結果になった。一方、従業員規模100人未満では17.6%となり、取り組み状況に12.2%の差が開いた。

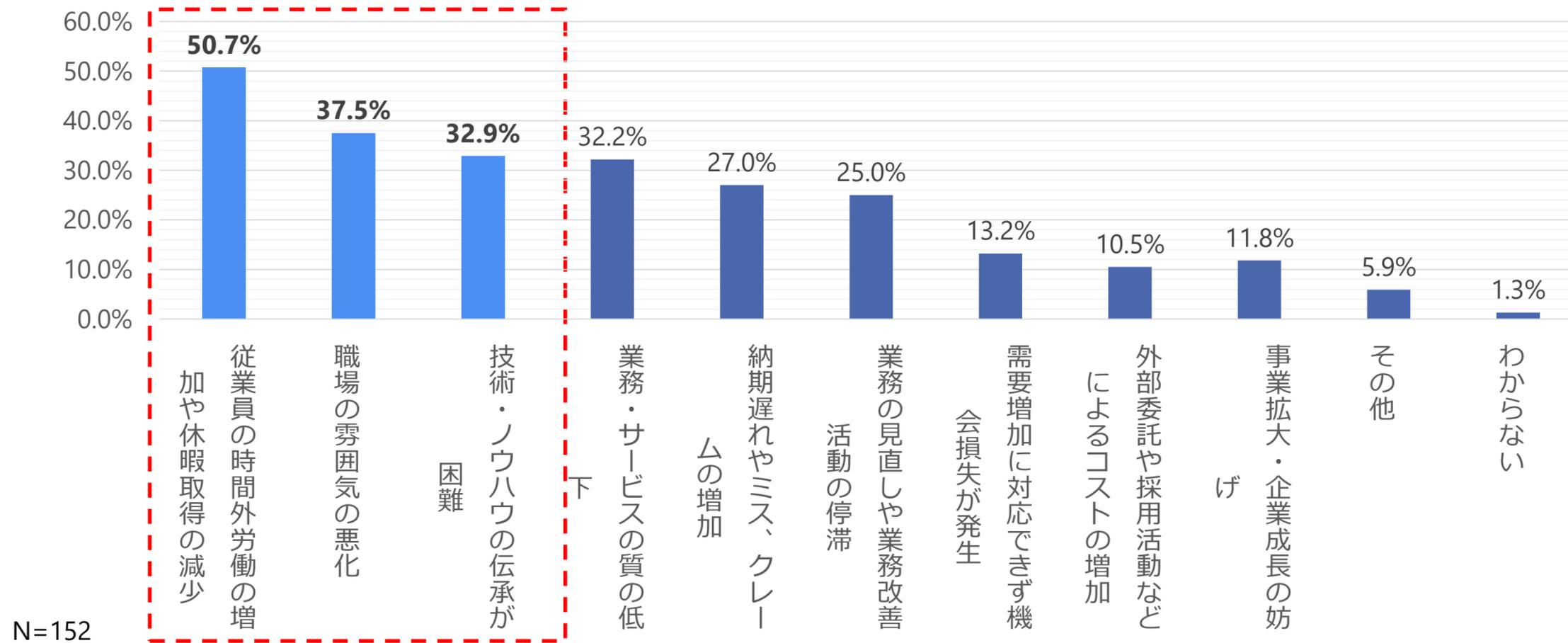
図3 人手不足が業務及ぼす影響の有無



## ■食品製造業の人手不足が業務に与えている影響（懸念される影響）

- 人手不足が業務に与えている影響（懸念される影響）について、もっとも回答が多かったのは「従業員の時間外労働の増加や休暇取得の減少」で50.7%、次いで「職場の雰囲気悪化」で37.5%、「技術・ノウハウの伝承が困難」で32.9%の順に続く結果になった（図4）。
- 従業員規模別の集計では「技術・ノウハウの伝承が困難」が最も多かったのは500人～999人の回答で50.0%、最も少なかったのは100人未満で回答は24.5%となった。

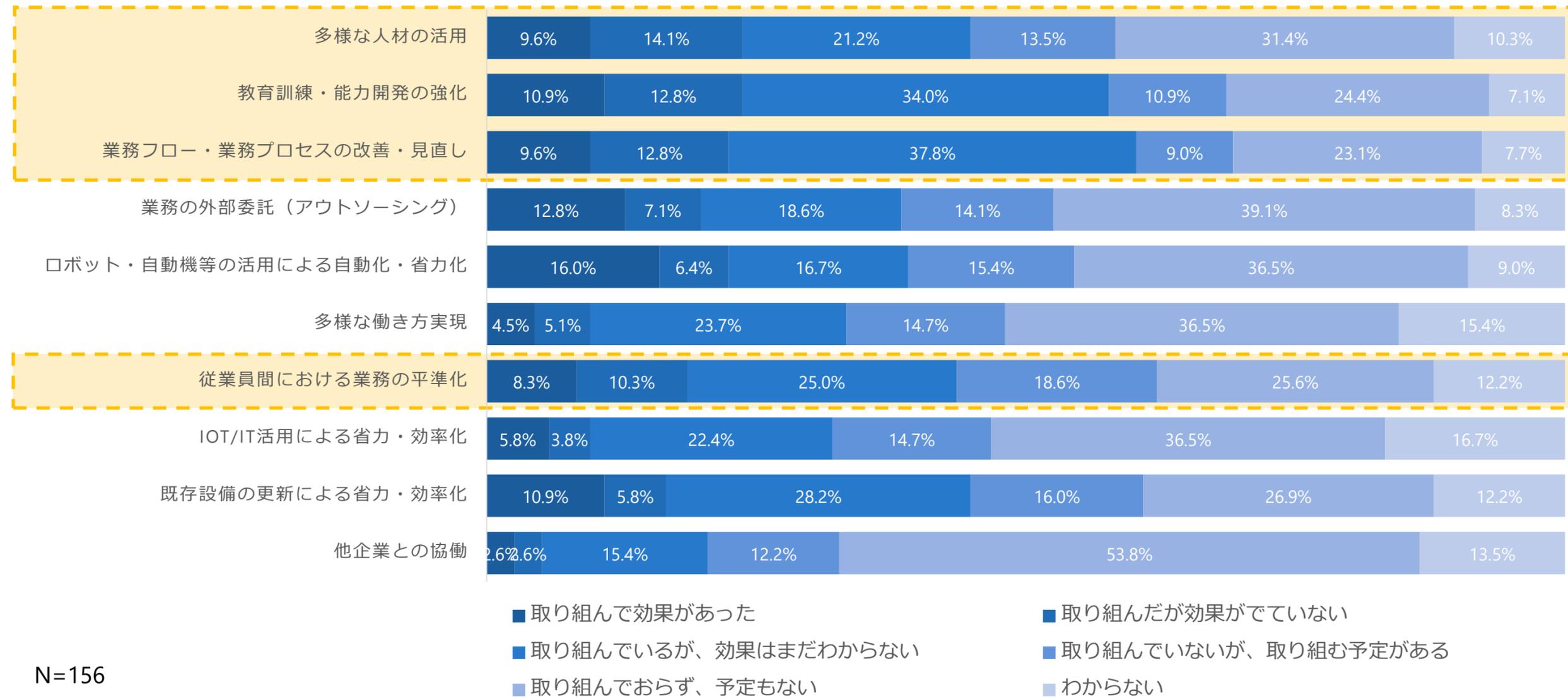
図4 人手不足が業務に与えている影響・懸念される影響（複数回答）



## ■ 食品製造業の人手不足への対応・取り組み状況

- 食品製造業の人手不足への対応方法・取り組み状況について、「業務フロー・業務プロセスの改善見直し」の回答が最も多く60.3%、次いで「教育訓練能力開発の強化」が57.7%、「多様な人材活用」「従業員間における業務の平準化」が44.9%となった。（図5）。

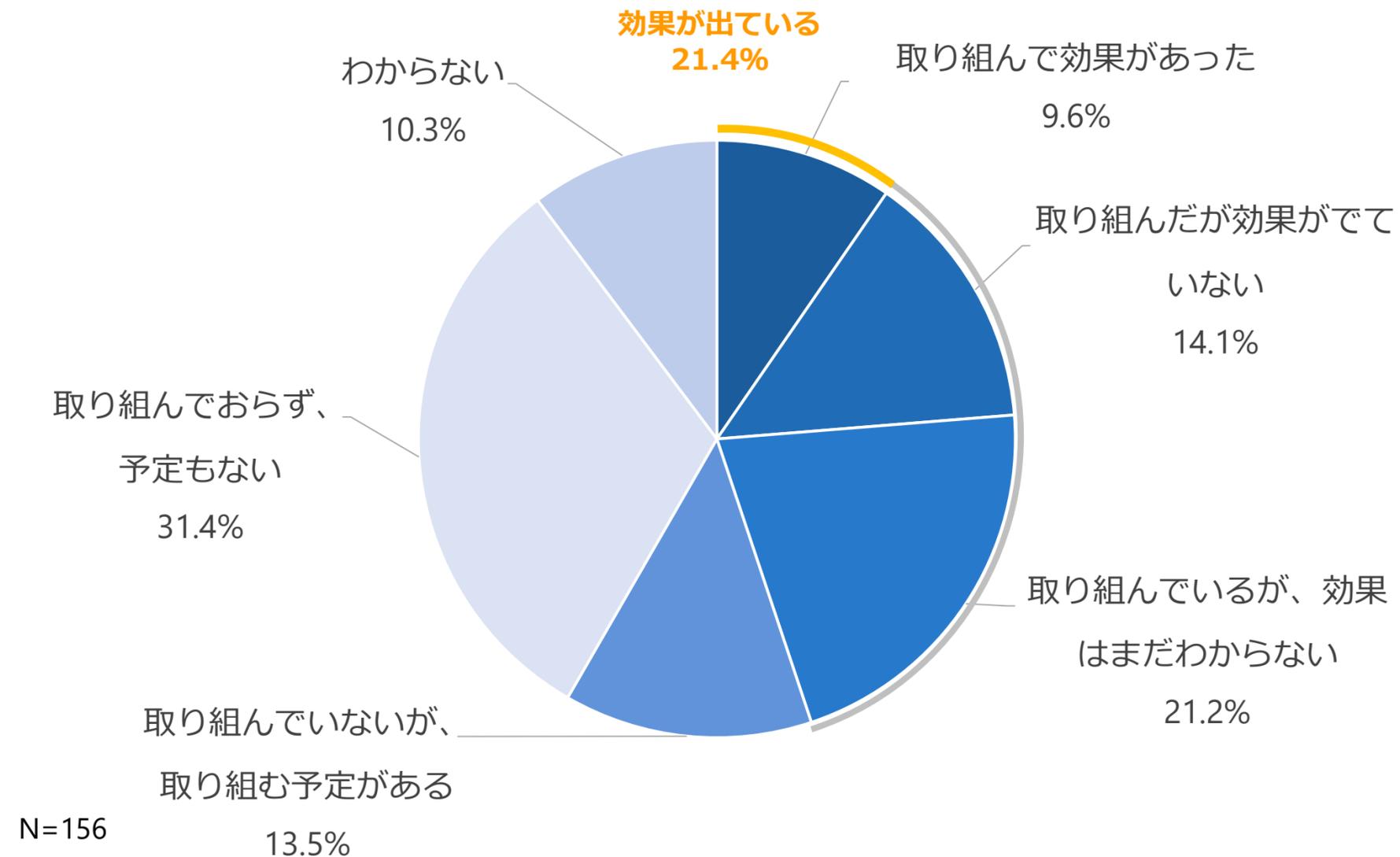
図5 人手不足への対応方法・取り組み状況



## ■ 多様な人材の活用

- 多様な人材の活用について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の9.6%となった(図6)。一方で、「取り組んだが効果がでない」が14.1%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が21.2%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは100人～499人の回答で14.3%となった。

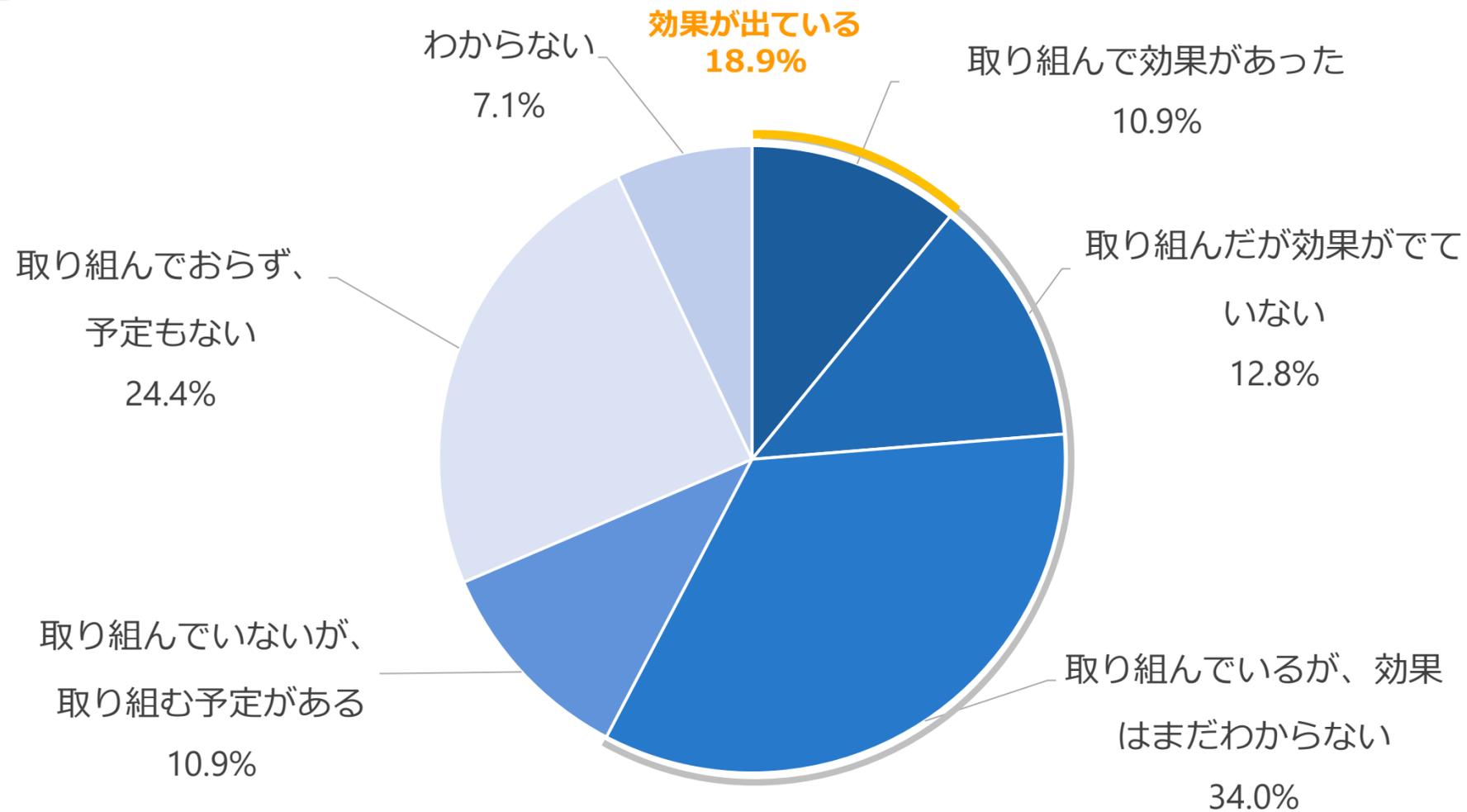
図6 多様な人材の活用



## ■教育訓練・能力開発の強化

- 教育訓練・能力開発の強化について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の10.9%となった（図7）。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が12.8%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が34.0%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは100人～499人の回答で16.1%となった。

図7 教育訓練・能力開発の強化

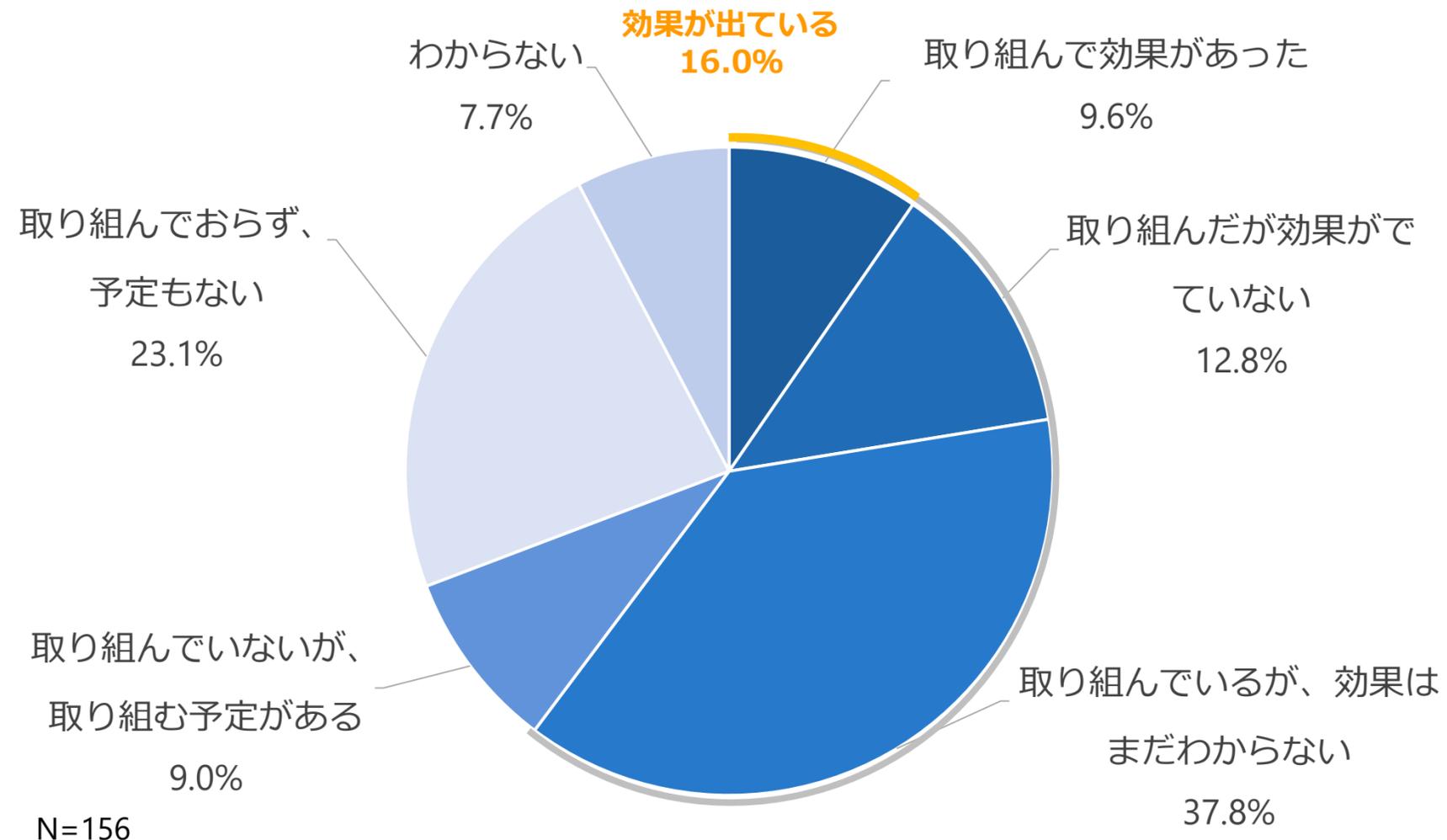


N=156

## ■業務フロー・業務プロセスの改善・見直し

- 業務フロー・業務プロセスの改善・見直しについて「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の9.6%となった(図8)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が12.8%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が37.8%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは100人未満の回答で11.8%となった。

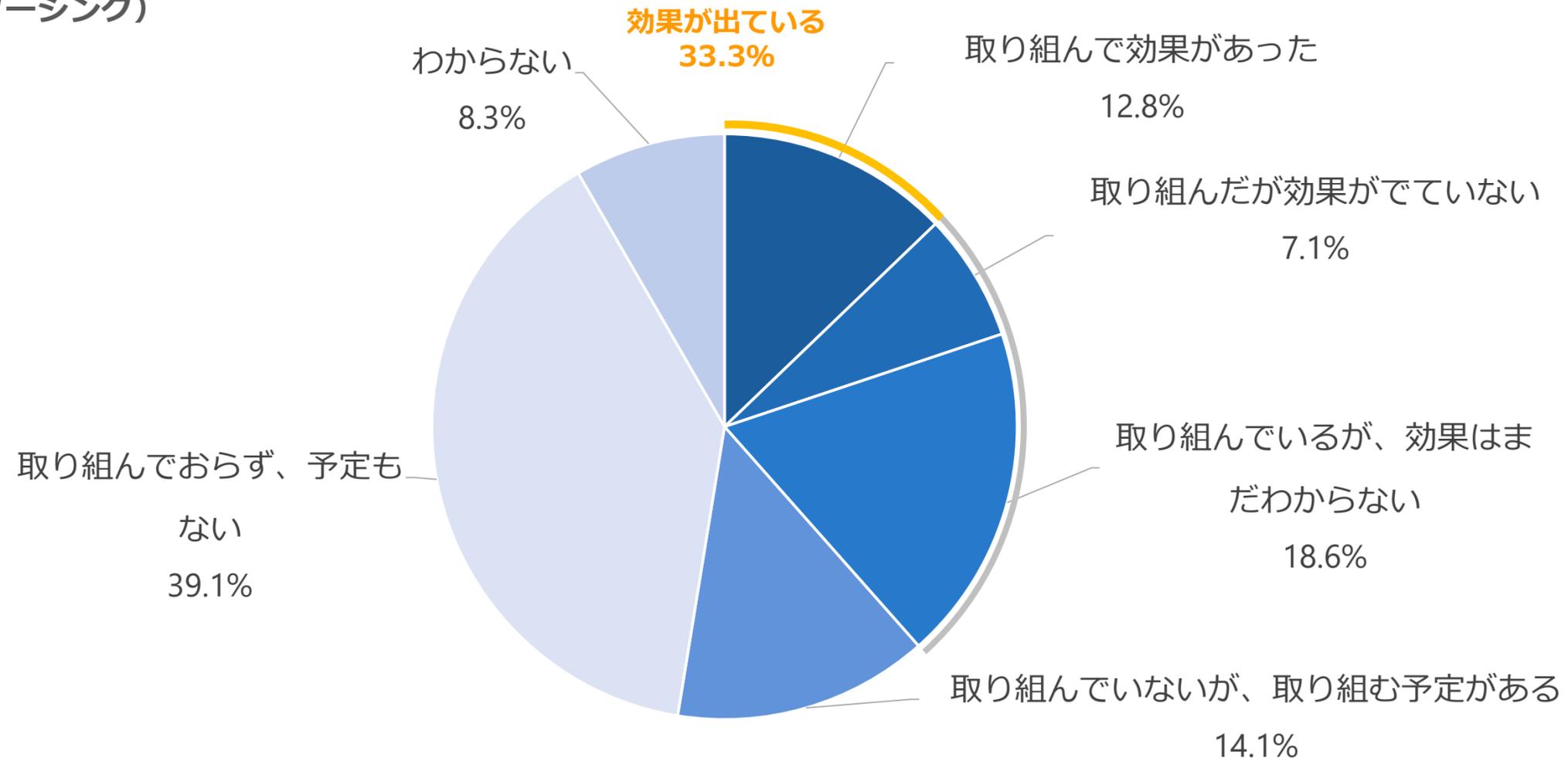
図8 業務フロー・業務プロセスの改善・見直し



## ■業務の外部委託（アウトソーシング）

- 業務の外部委託（アウトソーシング）について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の12.8%となった(図9)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が7.1%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が18.6%となった。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど業務の外部委託（アウトソーシング）が進んでいる傾向がみられた。
- 従業員規模1,000人以上では「取り組んで効果があった」の回答は21.6%という結果になった。一方、従業員規模100人未満では5.9%となり、取り組み状況に15.7%の差が開いた。

図9 業務の外部委託（アウトソーシング）

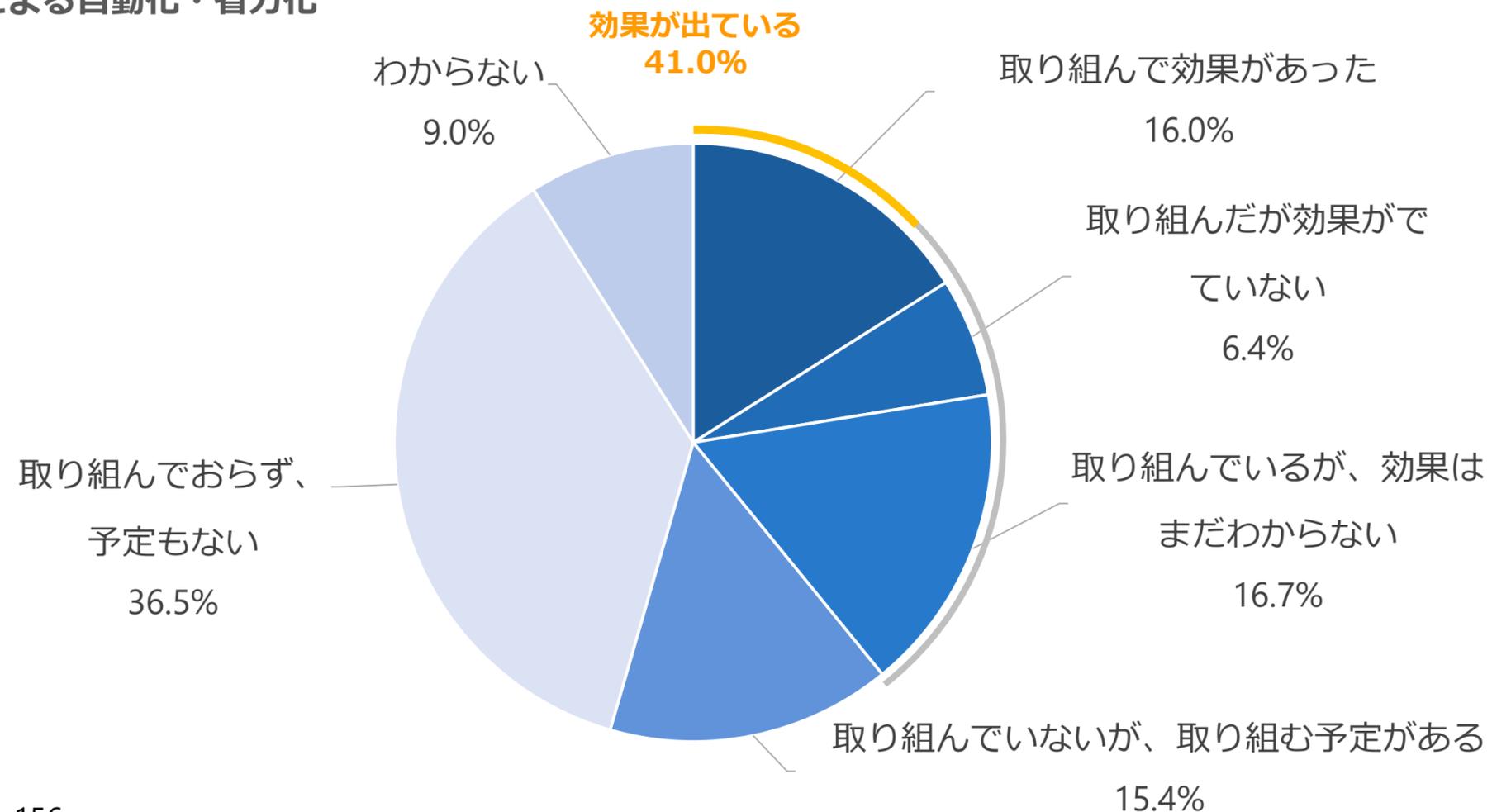


N=156

## ■ ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化

- ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の16.0%となった(図10)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が6.4%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が16.7%となった。
- 従業員規模別では従業員数が増えるほどロボット・自動機等の活用による自動化・省力化が進んでいる傾向がみられた。
- 従業員規模1,000人以上では「取り組んで効果があった」の回答は21.6%という結果になった。一方、従業員規模100人未満では7.8%となり、取り組み状況に13.8%の差が開いた。

図10 ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化

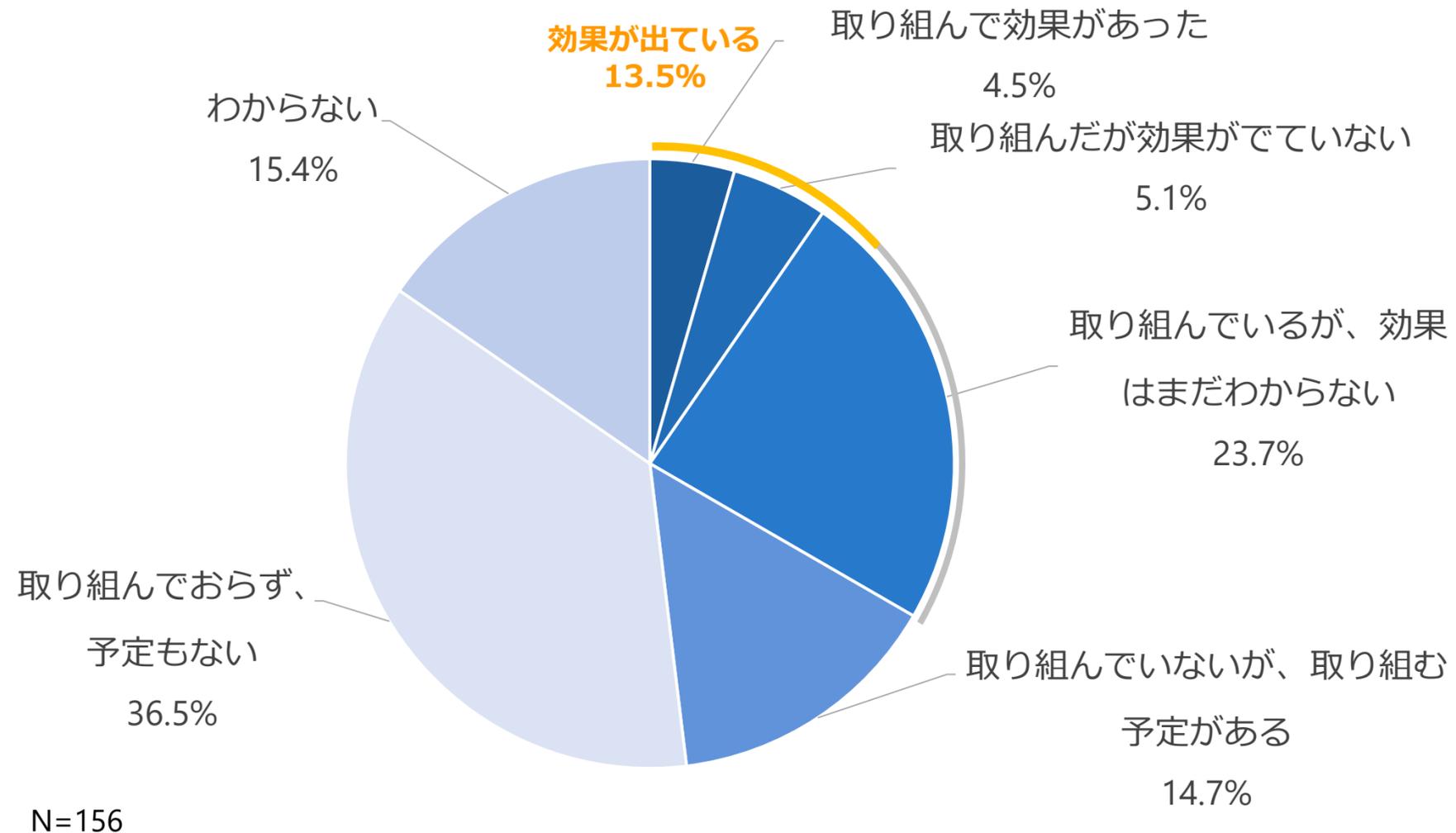


N=156

## ■多様な働き方実現

- 多様な働き方実現について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の4.5%となった(図11)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が5.1%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が23.7%となった。
- 従業員規模別では、特に大きな差はみられなかった。

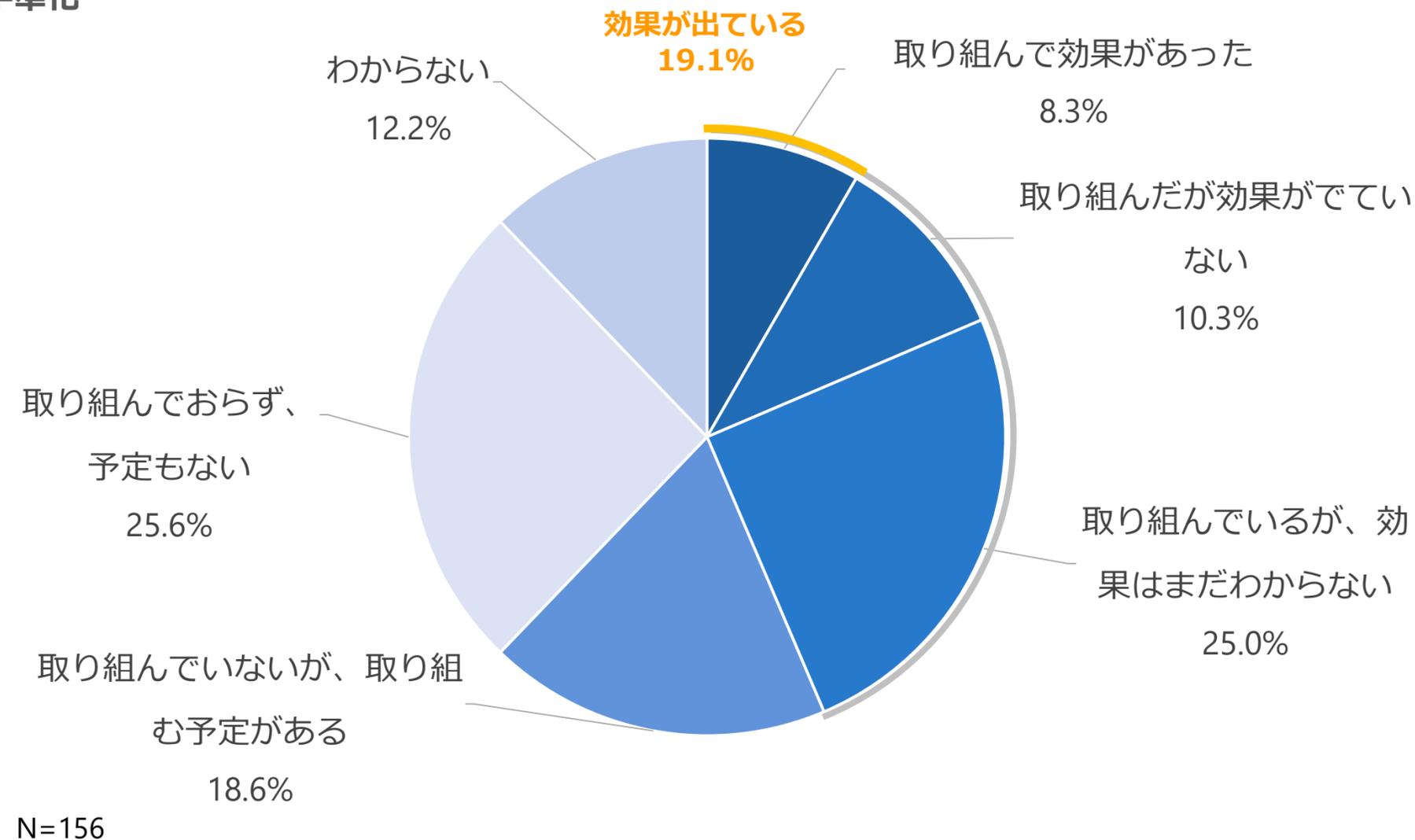
図11 多様な働き方実現



## ■ 従業員間における業務の平準化

- 従業員間における業務の平準化について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の8.3%となった(図12)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が10.3%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が25.0%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは100人～499人の回答で14.3%となった。

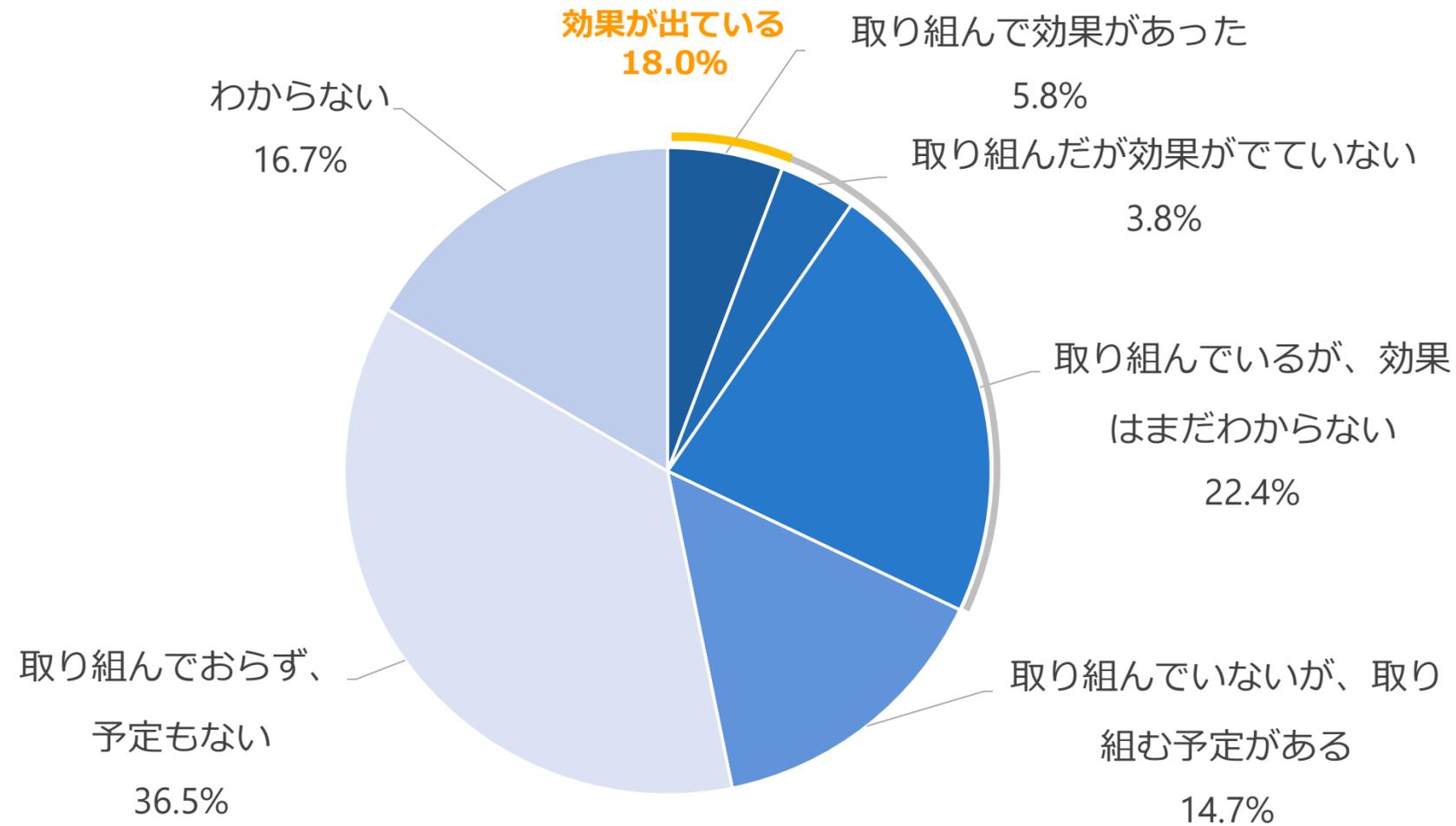
図12 従業員間における業務の平準化



## ■ IoT/IT活用による省力・効率化

- IoT/IT活用による省力・効率化について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の5.8%となった(図13)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が3.8%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が22.4%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは1,000人以上の回答で13.5%となった。

図13 IoT/IT活用による省力・効率化

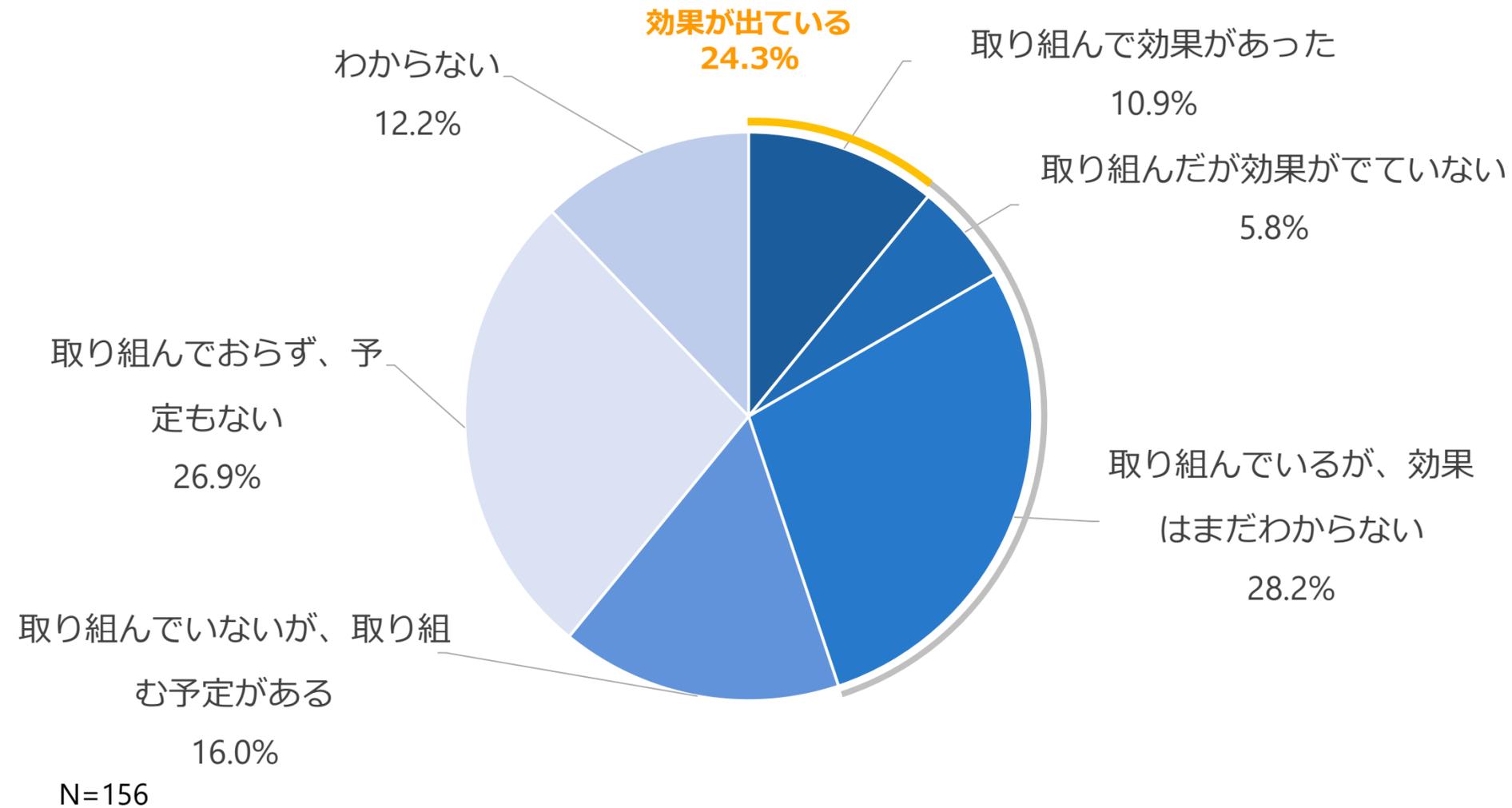


N=156

## ■ 既存設備の更新による省力・効率化

- 既存設備の更新による省力・効率化について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の10.9%となった(図14)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が5.8%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が28.2%となった。
- 従業員規模別の集計では「取り組んで効果があった」が最も多かったのは1,000人以上の回答で18.9%、最も少なかったのは100人未満で回答は5.9%となった。

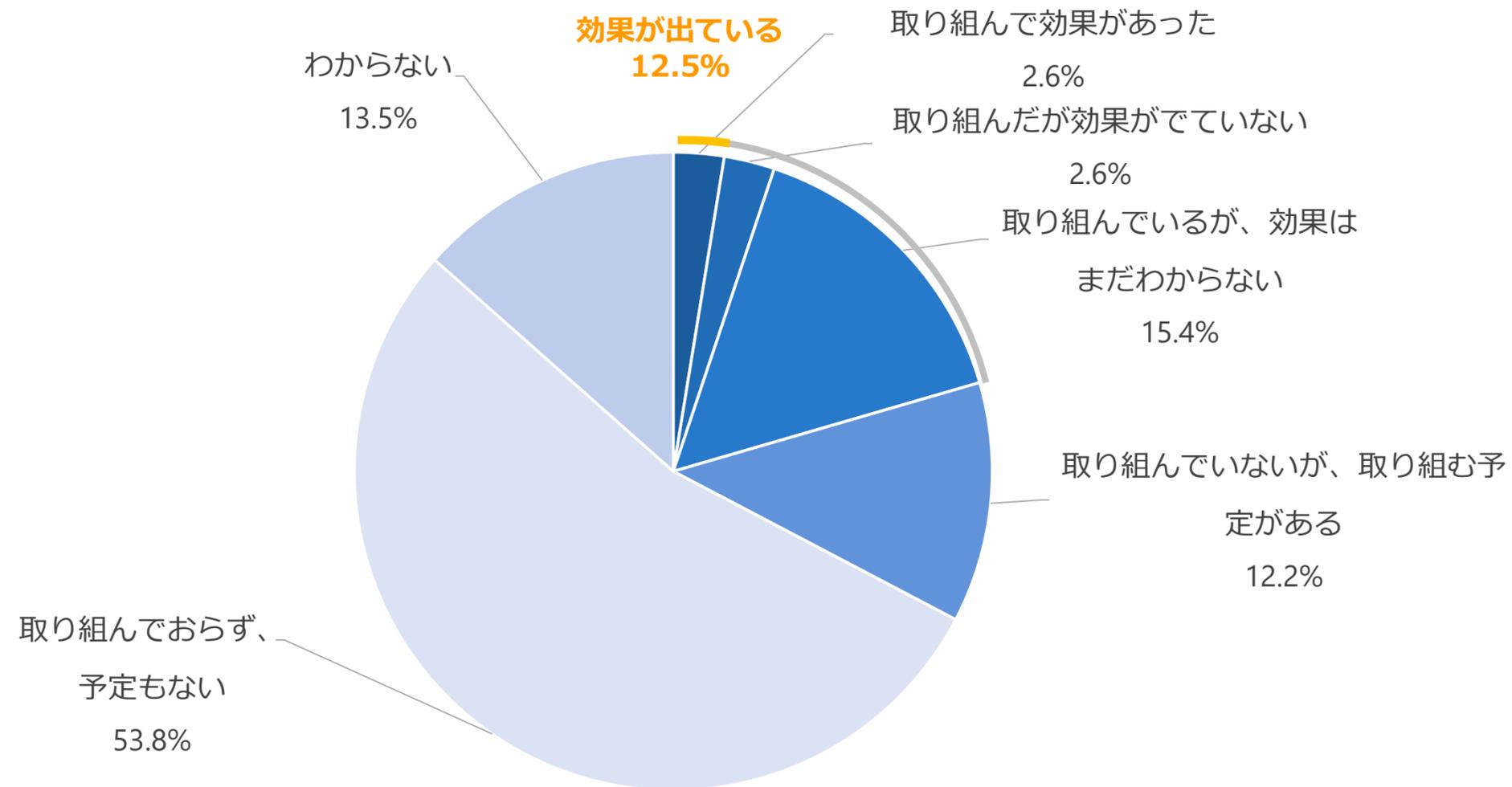
図14 既存設備の更新による省力・効率化



## ■ 他企業との協働

- 他企業との協働について「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の2.6%となった(図15)。一方で、「取り組んだが効果がでていない」が2.6%、「取り組んでいるが、効果はまだわからない」が15.4%となった。
- 従業員規模別では、特に大きな差はみられなかった。

図15 他企業との協働



N=156

## ■ 食品製造業の人手の過不足に関する問題・課題について（F A）

人手の過不足に関する問題・課題についてのF A（フリーアンサー）では、「少量多品種生産への対応」「採用の難しさ」「人材育成」「技能伝承」に関連する問題・課題が多くみられた（以下F A回答の抜粋）。

- 少量多品種生産で生産性が悪い
- 生産に余裕のある設備状況でないため、設備にトラブルが発生すると出荷に影響が出る
- メンテナンス出来る人材がいない、自分が引退したあとどうするのかわからない
- 人手不足による作業の掛け持ちの増加
- 高齢化が進んでおり、労働災害が多発している
- 景気が良くなっているせいか、募集をかけてもなかなか人が集まらない現象が続いている
- 50代のベテランと30代の中堅、若手との間が離職による人員のエアポケットがある
- 働き手の高齢化、それに対する自動化省力化技術導入遅れ
- 現場担当者と管理者との意見統一がなかなか図れない
- 商品が季節で左右されるので、繁忙期前の人材補充が課題
- 人材の採用、育成作業工程の見直し、他部署間との協力
- 若手社員の離職が多いため、次世代を担う人材の不足
- コロナで仕事が減ったのでむしろ、人の余剰が多い
- 従業員の高齢化が進んでいて需要と供給のバランスが悪い
- 製造数を予測し、人員シフトを作成するので、人員が必要な時、不要な時の人員数に乖離が出る
- 会社が次々に新製品をだそうとするため現場がついていけない

食品工場の人手不足対策・生産性向上をご検討中のお客様へ

## 食品工場・生産ライン・設備機器にこんな課題はありませんか？



労働者人口減  
・人手不足



IoT化の推進  
データ活用



突発的な設備故障  
生産ロスの低減



自動化・省力化



ペーパーレス化  
の推進

・食品工場のIoT化を進めたいが、どこからはじめていいかわからない。

・データの分析・解析が属人化しており、必要な人材も不足している。

・技能伝承が今後の課題だが、どのようなやり方があるかわからない。

・海外工場へ出張に時間がとられ、本来すべきことに時間がさけない。

・工場全体の省エネを進めたいが、どこからはじめていいかわからない。

・IoTに取り組み、挫折した経験があり、取り組みがなかなか進まない。

・メンテナンスができていない、いつ故障するか分からない設備がある。

・生産設備の故障時に、十分な原因分析・対策ができずにいる。

・出張制限・移動ができない状況下であり、視察・監査ができていない。

・技術者が不足しており、機械故障時の対応に時間がかかっている。

・人材の確保が難しい一方で、人材の育成には時間がかかっている。

・点検・チェック作業にバラつきがあり、作業品質上の課題がある。



**食品製造業界の製造活動を支える富士電機のソリューションで解決します**

## おすすめの食品製造業界向けソリューション

### 回転機故障予兆監視システム Wiserot



生産ラインや重要機器として稼働している、回転機の振動を定期的に計測することができます。

例えば回転機、ファン、ポンプ、発電設備、プレスなどの機械設備の「低周波の機械振動」「高周波のベアリング振動」及び「温度」を自動的に記録し、傾向を管理します。

これにより異常予兆を早期発見することが可能になり、適切な予防保全の立案、生産ロスコスト低減に貢献します。

### 遠隔作業支援パッケージ FWOSP-Glass



遠隔地の現場状況をリアルタイムで把握し、作業の指示や支援を行うことができるスマートグラスです。

作業員がFWOSP-Glassを装着することで、遠隔から映像を見ながら作業指示を伝えることができます。

現場では手順書を見ながらハンズフリーで作業可能で、さらに音声や動画によって作業を記録することもでき、保守・保全作業の負担を軽減します。

人材育成や人手不足などの課題に応え、これまでの働き方を変えると同時に業務の効率化を実現し、作業品質の向上、コスト削減にも貢献します。

### 導入実績一覧

飼料品・農林水産業A社様 高圧受電設備  
 食品・農林水産業A社様 FAシステム  
 食品/物流・倉庫業B社様 特高変電所  
 食品/物流・倉庫業B社様 分散制御システム(DCS)  
 食品/物流・倉庫業C社様 特高変電所  
 食品/物流・倉庫業D社様 FAシステム  
 飼料製造業A社様 高圧受電設備  
 飼料製造業A社様 設備予兆診断システム  
 飼料製造業B社様 高圧受電設備  
 飼料製造業C社様 FAシステム  
 食料品製造業A社様 特高・高圧受電設備  
 食料品製造業A社様 分散制御システム(DCS)

食料品製造業A社様 生産管理システム  
 食料品製造業A社様 トレーサビリティ管理システム  
 食料品製造業A社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業A社様 MSPC (多変量解析システム)  
 食料品製造業B社様 生産管理システム  
 食料品製造業B社様 原料在庫管理システム  
 食料品製造業B社様 原料計量・投入管理システム  
 食料品製造業B社様 トレーサビリティ管理システム  
 食料品製造業B社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業B社様 エネルギー監視システム  
 食料品製造業C社様 エネルギー監視システム  
 食料品製造業D社様 高圧受変電設備

食料品製造業E社様 分散制御システム(DCS)  
 食料品製造業F社様 設備予兆診断システム  
 食料品製造業G社様 設備予兆診断システム  
 食料品製造業H社様 FAシステム  
 食料品製造業I社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業K社様 設備稼働監視システム(MES)  
 飲料製造業A社様 生産管理システム  
 飲料製造業A社様 分散制御システム(DCS)  
 飲料製造業A社様 トレーサビリティ管理システム  
 飲料製造業A社様 設備稼働監視システム  
 飲料製造業A社様 エネルギー監視システム  
 飲料製造業B社様 特高・高圧受電設備

飲料製造業B社様 分散制御システム(DCS)  
 飲料製造業B社様 生産管理システム  
 飲料製造業B社様 設備稼働監視システム  
 飲料製造業B社様 エネルギー監視システム  
 飲料製造業C社様 異物検査装置  
 飲料製造業C社様 キャップ検査装置  
 飲料製造業D社様 ライン監視制御システム(DCS)  
 食品包材製造G社様 生産管理システム  
 食品包材製造G社様 設備保管理システム  
 食品包材製造G社様 検査画像管理システム  
 製薬業E社様 高圧受電設備  
 医薬品業F社様 BIシステム 他多数

# お問い合わせ

---

本資料に関するお問い合わせは下記URLよりお知らせください。

**食品工場ソリューション公式Webサイト：**

<https://www.fujielectric.co.jp/products/foodfactory/> 

富士電機株式会社

〒141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

営業本部 PA統括部 営業第4部1課